

ぐんま循環器病対策シームレス・プロジェクトの概要 (群馬県循環器病対策推進計画)

健康福祉部医務課

第1章 基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

- (1) 循環器病は、がんに次ぐ死亡原因であり、要介護者となる原因や医療費が高額となるなど社会に与える影響が大きいことから、循環器病対策基本法を制定
- (2) 法は、国が対策の基本的な方向を明らかにする基本計画を策定し（令和2年10月策定）、都道府県は基本計画をもとに推進計画を策定
- (3) この推進計画として「ぐんま循環器病対策シームレス・プロジェクト」を策定
 - ※シームレスとは…
切れ目のない、継ぎ目のないという意味。循環器病は急性期に早急に治療する必要があるとともに、回復期・慢性期にも再発・増悪しやすいという特徴を踏まえ、これに切れ目なく対応していくという意味合いを込めて「シームレス・プロジェクト」としている。

2 計画の位置付け

- (1) 医療分野の個別基本計画
- (2) 国が定める基本計画及び県の循環器病施策に関連する「保健医療計画」「健康増進計画」「高齢者保健福祉計画」等と調和を図り計画を策定

3 計画期間

- 令和4年度から5年度（2年間）
※ 保健医療計画等に合わせ、令和6年度から第2期計画を施行予定

4 SDGsへの対応

- 「3 全ての人に健康と福祉を」「8 働きがいも経済成長も」「11 住み続けられるまちづくりを」計画に位置づけ



第2章 群馬県の現状

- (1) 循環器系の疾患は、本県では死亡原因の第1位（全国ではがんに次いで第2位）
- (2) 年齢調整死亡率（人口10万人対）は、全国に比べて高い状況

		脳血管疾患	心疾患（高血圧除く）
男性	（群馬）	35.6人	64.6人
	（全国）	33.2人	62.0人
女性	（群馬）	21.0人	32.7人
	（全国）	18.0人	31.3人

※表数値は令和元年調査

- (3) 循環器患者数は全疾患の7%超。消化器、呼吸器、眼に続き4番目に患者が多い疾患
- (4) 循環器患者の内訳は高血圧性疾患（62%）、虚血性心疾患（9%）、脳梗塞（8%）
- (5) 健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる「健康寿命」は、令和元年調査で男73.4歳、女75.8歳（全国では、男72.7歳、女75.4歳）

第3章 全体目標と施策方針

1 全体目標

- (1)健康寿命の延伸
- (2)循環器病の年齢調整死亡率の減少

2 施策方針

- (1)循環器病の診療情報の収集・提供体制の整備
- (2)循環器病の予防や正しい知識の普及啓発
- (3)保健、医療及び福祉に係るサービス提供体制の充実
- (4)循環器病の研究推進

第4章 個別施策

1 循環器病の診療情報の収集・提供体制の整備

- (1)オープンデータや国から提供されるデータ等を分析し、循環器病対策に活用
- (2)本県独自のデータ収集体制の構築を検討

2 循環器病の予防や正しい知識の普及啓発

- (1)生活習慣病の予防や循環器病に関する知識の普及啓発を実施
- (2)「ぐんま元気(GENKI)の5か条」「G-WALK+」など健康寿命延伸に向けた取組を実施
- (3)循環器病関係団体が行う「ぐんまちゃんの脳卒中ノート」「心不全健康管理手帳」などの予防、啓発の取組を支援
- (4)循環器病の発病に影響のある喫煙率の減少と受動喫煙防止のための取組を実施

3 保健、医療及び福祉に係るサービス提供体制の充実

- (1)健康診査、特定健康診査、特定保健指導等の実施率向上を目指し、啓発活動を実施
- (2)メディカルコントロール体制を充実強化し、迅速かつ適切な救急搬送体制を構築
- (3)急性期から回復期、慢性期、在宅まで対応できる医療連携体制を構築
- (4)多職種連携などにより地域包括ケアシステムを構築
- (5)循環器病の特徴に応じたリハビリテーション提供体制の整備
- (6)各医療機関が行う公開講座など循環器病に関する情報提供の取組を支援するとともに、相談支援窓口の設置などを検討
- (7)循環器病緩和ケアの推進に必要な施策を検討
- (8)失語症など循環器病の後遺症を有する者への支援
- (9)治療と仕事の両立や就労の支援を実施
- (10)移行期医療体制の整備など小児期・若年期から配慮が必要な循環器病への対策を実施

4 循環器病の研究推進

- (1)本県独自の研究体制構築に向けた検討
- (2)医工連携を推進

第5章 推進・評価

- (1)計画内容について県内関係者や県民へ周知を図るとともに、施策を着実に推進するため、PDCAサイクルにより計画の進行管理を実施
- (2)市町村や医療提供者に、本計画の趣旨や目的、現状と課題などの共有化を図り、必要な取組への協力を要請
- (3)日本脳卒中学会や日本循環器病学会が作成するロジックモデルに示される指標や考え方などを用いて評価を実施し、次期計画を検討